

〈論文〉

文学テキストの空所を読む —中国語上級クラスにおける小説読解実践からの一考察—

単 艾婷

要旨

以文学为题材の汉语教材往往仅停留在获取语言知识上，而忽略了对其内容的深入理解。本文以现代小说《冰箱里的企鹅》为题材，设计了阅读教学活动。在设计练习题时，我们不仅考虑到要让学生从文本中直接提取信息回答问题，同时也注重从文本“空缺”阅读的角度出发设计问题，旨在促使学生能够更加深入地了解故事的框架、人物和情节等等。本文具体分析学生对于这些问题的回答倾向，结果表明：大多数学生使用小说中提供的各种信息为依据来解读文本，部分学生着眼于整个故事的框架来解读文本，另外还有少数学生对文本进行了误读。

キーワード：文学テキスト 空所 「読み」 読者 中国語読解実践

1. はじめに

文学作品を題材とする中国語読解授業については、これまでに多くの中国語教育者や中国文学研究者による実践例が報告されており、最近刊行された相原（2021）や関根ほか（2020）に代表されるように、同様のコンセプトの教科書も複数出版されている。ここで、これらの授業実践や教科書における設問の傾向に目を向けてみると、単語・文法の知識を習得させるものや、文章を正しく読むこと、つまり中国語の文章を「分析的に読む」（渋谷，2003）ことに主眼を置いたものが大多数であることが見て取れる。この「分析的に読む」という行為は、換言すれば「文学テキストから情報を取り出すことを目的とする読み」（山元，2014：67）を実行するということである。

Vipond & Hunt (1984) は、文学テキストは「情報駆動 (information-driven) の読み」「物語内容駆動 (story-driven) の読み」「要点駆動 (point-driven) の読み」という三種の「読みの様式」に従って読み解くことが可能であると指摘している。ここで「情報駆動の読み」は、現象的には上記の「分析的な読み」とほぼ等価な概念であり、「物語内容駆動の読み」は「文学テキスト内で展開される物語の出来事や登場人物、設定を理解することを目的とした読み」、「要点駆動の読み」は「物語の語り手のメッセージや物語の枠組みを理解することを目的とした読み」を意味する（山元，2014：67-68）。そして、文学テキストのより深い理解のためには、「情報駆動の読み」だけでは十分とは言えず、「物語内容駆動の読み」や「要点駆動の読み」をも駆使しながら読み解くことが不可欠である。

では、そもそもなぜ「物語内容駆動の読み」や「要点駆動の読み」が可能であるかと言えば、文学テキストの言葉は「空白だらけ」であり、ここに〈解釈〉の余地が生じるからである（e.g. 石原，2009）。イーザー（2005：291）は、文学テキストの空白が生起させる効果につ

いて、「空所」という概念を導入し、「空所はテキストにおけるさまざまな叙述の遠近法の間の関係を空白のままにしておき、読者がそこに釣り合いを作り出すことでテキストに入り込むようにする働きをもつ。すなわち、空所は、読者がテキスト内部での均衡活動を行う糸口となる」と説明する。そして山元（2014）は、Rosenblatt（1938）による読者反応理論に立脚し、読者がテキストの空白を読み解き、テキストとの対話による「読みの交流」を行い、テキストをより深く理解するためには、つまり、読者の読解力を向上させるためには、読者が「情報駆動の読み」のみならず「物語内容駆動の読み」や「要点駆動の読み」の方略を駆使してテキストに向き合うことが重要であると指摘する¹⁾。これは中国語教育において文学テキストを教材として使用する際にも留意すべき重要な視点であろう。

本研究では上記の問題意識を背景として、中国語学習者が文学テキストをより深く読み解くことができるような読解授業の設計に資することを目的とし、文学テキストを題材とした授業の実施時に、授業課題として、「情報駆動の読み」のみならず「物語内容駆動の読み」や「要点駆動の読み」が可能な設問を導入し、それらに対する学習者の回答の傾向を分析する。そして、今後の中国語読解授業において留意すべき課題の抽出を行い、新たなコンセプトによる授業カリキュラムや教科書の設計指針について検討する。

2. 中国語上級クラスにおける小説読解実践

2.1. 実践の概要

本研究における実践は、令和2年度春学期（4月15日～7月29日）に本学「中国語上級」クラスでの中国語現代小説を題材とした読解授業の中で行ったものである。読解授業はオンデマンド授業（Moodle上）として実施した。「中国語上級」の授業は週1コマ開講され、四年生4名・三年生8名の計12名が履修している。履修生の内訳は、文学部1名・商学部1名・法学部2名・国際文化学部8名となっている。授業では専用の教材を作成して使用した。教材の詳細に関しては、単（2021）を参照されたい。

2.2. 本実践で使用したテキスト

本授業では、中国の若手作家、陈湛による短編小説集《世界上所有童话都是写给大人看的》（『世界中の童話は大人のために書かれている』、天津人民出版社、2014年）に収録されている作品《冰箱里的企鹅》（「冷蔵庫のペンギン」）を読解授業の教材として使用した。同作品は、物語の主人公かつ焦点人物である「我」による一人語りの形式を取る（内的焦点化された）一人称小説であり、以下のようなあらすじで物語が展開する²⁾。

めんどくさがり屋で自堕落な日常を送る「我」は、1年前の引っ越しのときにふと思い立って大きな冷蔵庫を買ったものの、それはいつまで経っても空っぽのまま、電気代だけを食いつぶす巨大なインテリアになっていた。そんなある日、いつも通り空っぽの冷蔵庫を開けたとき、そこに一羽のペンギンがいるのを見つけた。最初はいいやながらも「她」との生活を始めた「我」であったが、日が経つにつれて「她」が「我」

にとってかけがえのない存在になる。そして「她」のひとつで手料理を習い始め、料理のレパートリーも増えていくなか、次第に自分の中に隠されていた自分の素敵な家庭人としての一面に気づき始める。それからしばらくしたある日、「我」は「她」を両親に紹介したいと「她」に告げる。しかし「她」はその提案を悲しげに拒絶し、冷蔵庫に潜り込んでしまうのだった。そして翌日、「她」はすでにいなくなっていた。しかし冷蔵庫の中は美味しそうなるあらゆる食べ物で満ち溢れているのだった ...

この物語の最も大きな枠組み（以下、〈大局的な構造〉と呼称する）は、「我」の「変容（e.g. 齋藤, 2018）」である³⁾。この〈大局的な構造〉は、アダン（2004: 23）の図式に従えば以下の通り表現される。

継起	演技者	述語	時間
I. 発端の状態	A1: 我 A2: 她	X: 我终归是一个懒散的人, 每天下班回家累得半死, 连买菜都懒得去, 更不用说开火做饭了, 于是我还是像以往一样每天下馆子, 而这个大冰箱也就成了一个奢侈的摆设, 占地方不说, 还挺费电。	t1: 「一年前」から「三个月前的一天」まで
II. 事行	A1: 我 A2: 她	Y: 我们（我・她）就这样在拥挤城市中的一块小孤岛上相依为命, 让彼此在孤单的时候有一个依靠。 ↓ 打开冰箱一看, 她已经不在了,	t1: 「三个月前的一天」から現在まで
III. 結末の状態	A1: 我 A2: 她	X: 她走后, 我又开始在睡前条件反射地去翻一翻冰箱, 不过从那之后我再也没有去外面吃过晚饭, 因为我的冰箱里总是放着各式各样好吃的东西。	t3: 現在

また、物語の要所要所に〈「她」に〇〇を頼まれた〉という状況に続く〈「我」が〇〇を実行した〉という枢軸機能体（バルト, 1979; 橋本, 2014）が配置されている。これは物語の筋を展開させる機能を果たしているとともに、物語の〈大局的な構造〉（「我」の変容: $X \rightarrow X'$ ）を暗示する役割を担っていると考えられる。例えば、第二回と第三回の授業実践での学習箇所においては、

第二回: 〈「她」に魚を買ってくることを頼まれた〉→〈「我」が秋刀魚を買ってきた〉

第三回: 〈「她」に冷蔵庫の改造を頼まれた〉→〈「我」が冷蔵庫を改造した〉

という枢軸機能体が配置されており、「我」の変容を暗示している。

3. 学習者の回答

学習者の「読み」の検証にあたっては、「中国語上級」クラスにおいて各回のオンデマンド授業後に学習者が提出した、授業課題の質問への回答を分析データとして使用した。各回の質問は以下の通りである。

- 【質問1】この物語の主人公である「我」は、どのような人物であると皆さんは想像するのでしょうか？（性格とか、仕事とか、生活スタイルとか、等々...）自由にまとめてみましょう。
- 【質問2】この物語の主人公である「我」は、家を出てから仕事場に着くまでの間、心の中でどのようなことを考えていたのでしょうか？「这家伙还真不把自己当外人啊...」に続くセリフを考えてみましょう。
- 【質問3】「她」に「拜托你把这里面的灯修一下好把？每次开门都亮着，门一关就暗了。」と言われた「我」はこの後、心の中で何を思ったのでしょうか？自由に想像してみましょう。
- 【質問4】「...她是只很聪明的企鹅，有很多奇奇怪怪的想法，时常能逗得我很开心。...」とありますが、「我」は、「觉得她就像是自己的朋友」という感覚を抱くに至るまでの間、「她」とどのような会話を交わしていたのだと思いますか？自由に想像してみましょう。

質問1と質問4は、学習者がテキストの細部に対する理解をより深めることができるように作問した。これは、物語の指標(物語の筋の展開には関係しないが、人物のキャラクター性や雰囲気、その他もろもろの状況を伝えるもの：バルト, 1979; 橋本, 2014)を手掛かりとしてテキストの空所を読み解くことを目的とした質問で、「情報駆動の読み」および「物語内容駆動の読み」を主な読解方略とするものである。

質問2と質問3は、テキストの<大局的な構造>に目を向けることができるように作問した。物語の枢軸機能体を手掛かりとして、テキストの空所を読み解くことを目的とした質問で、「情報駆動の読み」および「要点駆動の読み」を主な読解方略とするものである。

以下の表1～表4に12人の学習者(学生 No.1～No.12)の回答を示す。表1・表4では、分析上の便宜のため、各学習者の回答中に見られる要素ごとに通し番号((1),(2),(3)...)を割り振った。なおNo.1～No.8の学習者に関しては、全4回の回答を回収することができたが、No.9～No.12の学習者に関しては、一部のみしか回収することができなかった。

表1 質問1に対する回答

学生 No.	回答
1	(1) 家事が得意ではなく、(2) だらしない印象。 (3) 理想の姿ばかりを描いている。 (4) 仕事も苦手かもしれませんね。
2	(1)「我」... 年輕人 (20 歳～35 歳), 單身 (2) 工作 ... 上班族 (3) 個性 ... 害怕寂寞的人 (4) 喜歡 ... 滾來滾去, 便利店, 看電視 (5) 生活 ... 是個夜貓子, 每天都很晚才睡覺

3	(1) 新卒の社会人。(2) 休日は寝て一日を過ごしそう。
4	(1) 朝7時には家を出発して夜9時頃に帰宅するというような生活を送っている (2) サラリーマンで、(3) 恐らく、引越し時に大きすぎる冷蔵庫を買ってしまった点や忙しさから見て新卒 or 社会人2-3年目の比較的若い人物。 (4) 少し孤独や絶望感といったようなものを抱えているように感じる。 (5) 引越しをする前はやる気に満ち溢れていたことだろうが、今は何かしらの問題あるいは不安を感じているのではないだろうか。
5	(1) 一人暮らしの人によくある自堕落な生活をしてしまう人。 (2) 自分ちの冷蔵庫にある日突然ペンギンがいたら、私は驚いて失神してしまいそうだけど、我はペンギンの容姿についてきれいだとか言っていてとても落ち着きのある性格だなあと思いました。 (3) おなかせしているわけではないけれど冷蔵庫をあさるのは私も時々するので共感できました。 (4) 会社に行って買い物も面倒でご飯も作れないくらいにつかれるというのは我はまだその会社に慣れきっていないのかなとも思いました。
6	(1) 飽きっぽくて、気が変わりやすい。 (2) 疲れると何もしたくなくなる。 (3) 仕事が忙しい。 (4) 思い立つとすぐ行動してしまう。
7	(1) 一旦決定就無法保护的な人格 (2) 麻烦的人格 (3) 不整潔的人 (4) 那些忙于工作的人 (5) 那些看重冰箱的人
8	(1) 大きな冷蔵庫を「突然思い立って」買ったり急に自炊を始めたという行動から、主人公の衝動的で行き当たりばったりな性格がうかがい知れる。 (2) また、上記のような行動から、形から入るタイプだと思われる。 (3) 仕事中はしっかりしているが、オンとオフの差が激しく、(4) 日常的に外食を利用している。 (5) 冷蔵庫を漁ることを一つの安心材料にしていることから、どこか寂しさを抱えている人物のようにも思える。
9	(1) アパートを買ったと同時に一人用でない冷蔵庫を買ってしまったということから、日常に常に新鮮さや輝きを求める人。(2) しかし、その一面実はとても面倒くさがりで、そしてその冷蔵庫を使うために買ったというよりも買ったこと自体に満足してしまっていた。
10	(1) 村上春樹の小説に出てくる人物のようだと思った。人には理解されないであろう何かを持ち、理解されないだろうけど、僕は好きだ、とこだわりを持っているところが。(2) 私だったら、大きなキッチンがあるから、と思い立ったように引っ越さないし、電気代が高い、使うわけでもない冷蔵庫は処分するか、電源を抜いておくと思う。(3) しかし、そんな変なこだわりがあるからこそ、まさか出会うとも思わない、かわいいペンギンに巡り会えたのだと思う。(4) 生活スタイルとしては、仕事人間っぽいなあと思った。(5) 冷蔵庫を漁ることで癒やしを得ているのは、ストレスがたまっているからではないのか、と予想してみる。

表 2 質問 2 に対する回答

学生 No.	回答
1	<p>如果我下班后买条鱼回来，她会半天住在我的冰箱里吗？ 我一整天真的很担心买条鱼。 因为我想知道她会如何反应，结果我下班后买条鱼回来。 我很紧张。</p>
2	<p>我要記得買條魚回來。我在手機上寫備忘錄哦。 等一下，為什麼我需要給她買到魚？ (考慮一下) 我也不知道耶。沒辦法。因為她超可愛所以我想幫助她。 下班後我要去全家或 7-Eleven。</p>
3	<p>臉皮真厚</p>
4	<p>玄関のドアを閉めて外に出ると、朝の気持ちいい風に当たったせいか、急に現実世界に戻されたような感覚にハッとした。 「いや、待てよ。なんでペンギンなんか冷蔵庫にいるんだよ！！！！？」 ゴミ出しに出かけた二つ隣のおばさんがビックと肩をすくめてこちらを見た。 「あ、お、おはようございます。」 と、私は咄嗟に挨拶した。 おばさんは「おはようございます」と焦った声で辛うじて挨拶を返し、そそくさとドアを閉めて部屋の奥へと行ってしまった。私は肩をすくめた。そして、初任給で奮発して買った腕時計をチラッと見た。とりあえず、止まって考える時間は残されていないようだ。普段から肅然としているアパートから抜け出し、喧騒に包まれた朝の街に身を投じていく。 「ちょっと最近疲れてるのか…」 「悪い夢なのだろうか？いや、悪いというほどのことは起きてないしなあ…」 「しかも、可愛らしいところは…まあちょっとあるし…」 「彼女にも何か特別な事情があるのかな」 「いや、でも礼儀が無いのはいくら可愛いからとはいえよくないだろう！！」 頭の中でいくら答えを探そうとしても見つかるはずもないのは分かっているのだが、つつい彼女の事について考えてしまう。そんなこんなで私の目前に立ちただかるのは、まるでゲームの世界でラスボスが住まう古城のような風貌をした巨大な建造物だ。人がどンドン吸い込まれていくその建物は巨大な掃除機のような異様を放っているのだが、誰もそんなことは毛頭考えない。かくいう自分も今からその掃除機に自ら吸い込まれていく人間なのである。 「いかん、いかん。仕事だ、仕事だ」 そう自分に言い聞かせ、深呼吸して息を整えてから、自動ドアの奥へと吸い込まれていくのだった。</p>
5	<p>動物が勝手に自分ちに入り込んでくるなんて、、とか、家に帰ってもあのペンギンがいるから心が休まらないなど考えていて、「他人の家に勝手に暮らすなんて罔々しい奴だな」という少し怒りを含むセリフが続くと思います。</p>
6	<p>可是她很可爱，我要给她买很多鱼。</p>

7	<ul style="list-style-type: none"> ・あのペンギンは僕のことが怖くないのかなあ ・どこからやってきたんだろう ・なんでこの冷蔵庫を選んだんだろう ・憎いけど憎みきれいなあ ・勝手に使って図々しいなあ ・一匹くらいなら買ってあげようかなあ
8	<p>それにしても、と私は思った。彼女は一体どこからやってきたのだろうか。動物園かどこからか逃げ出してきたのだろうか。冷蔵庫に住むペンギンなんて聞いたことがない。彼女の美しさにとらわれて気づかなかったが、あのペンギンはしゃべってもいた。精巧なロボットか何かなのだろうか。しかしそれならば、魚を食べることはできないだろう。じゃあ、やっぱり本物？ 電車の窓の外の風景を眺めながら、とにかく、と私は決めた。仕事の帰りには魚を買って帰ろう。自分の分も買って、久しぶりに料理をするのもいいかもしれない。どちらにせよ、あのペンギンに冷蔵庫の中で飢え死にしてもらっては困る。ペンギンの死体なんて見たくもないし、食べ物が欲しいと騒がれても困る。帰ったときに、まだ彼女が冷蔵庫の中にいる保証はどこにもないが。</p>
9	<p>为什么她来了我家的冰箱？ 他是真的麻烦的企鹅。</p>

表3 質問3に対する回答

学生 No.	回答
1	<p>冰箱就是这样。 我没听过一直通电的冰箱。 你之前住究竟怎么冰箱里？</p>
2	<p>“我”现在喜欢“她”一点，所以“我”觉得“我”想帮助“她”。 虽然“我”想修一下，但是很难。我不熟悉机器耶。 一般來說，全部冰箱裡都是一樣吧。到現在“她”每次讓家庭成員修復冰箱嗎？ 真的！好厲害。大家辛苦了，“我”也需要修復冰箱嗎？</p>
3	<p>就会觉得这个企鹅像个任性的小孩子一样觉得拿他没有办法</p>
4	<p>まったく...。 彼女は本当に他の冷蔵庫に行ったことがあるのか？ 冷蔵庫は扉が開くと電気がついて、閉まると電気が消える。 そういうものだろうか？ 真是的。 他真的去过别的冰箱吗？ 冰箱是门开时点灯，门关时熄灭。 是这样啊？</p>
5	<p>また文句かあとと思いつつも、頼られてうれしいなと思っている。</p>
6	<p>冷蔵庫の明かりが開けたらついて閉めたら暗くなるのは当たり前だからどうすることもできないだろうと思いつつ、わがままなペンギンがとても可愛いから手伝ってやろうと思う。</p>

7	<ul style="list-style-type: none"> ・強がっていたのにも関わらず、素直にお願いしてきてかわいい。 ・こういうところがやっぱり好きだなあ。 ・直してあげたいけど自分にできるかな？ ・もしかして暗いのが怖いかな？
8	それは冷蔵庫の仕様なのだから直せないなあ。それにしても様々な冷蔵庫を渡り歩いている割にはそんなことも知らないなんて、おかしなやつ。
9	修理せずに扉を閉めてもずっと暗くなるようにし、ペンギンを冷蔵庫の中から必然的に出させて、ずっとお部屋と一緒に暮らしたいと考えた。

表4 質問4に対する回答

学生 No.	回答
1	本について話すうちに、お互いの考え方がわかるようになって仕事や将来の話をする、とありましたが仕事で褒められたこと、成功して嬉しかったこともあれば失敗して怒られたこと、上司や後輩に対する愚痴などを話したのではないのでしょうか。また、将来については、友人の付き合いや好きな人、結婚についての考えを話したと思います。その他にも他愛のない、好きな食べ物、服、いろいろ話したと思います。
2	<p>我：我今天心情不好。</p> <p>企鵝：怎麼樣？</p> <p>我：我今天工作做不完。</p> <p>企鵝：我懂了。辛苦了。(冰淇淋)給你。</p> <p>我：謝謝～。</p> <p>企鵝：你一定要相信你明天可以。</p> <p>1つの例として、仕事帰りの会話を挙げてみました。</p> <p>ただの「ペンギンと私」だった関係は、日々の会話を通して、お互いにかけてえのない存在になっていることが読み取れます。</p>
3	从诗词歌赋谈到人生哲学，变成了书友。
4	<p>これまでに訪れた冷蔵庫がどれもパンパンにモノが入っていて、それを不思議に思っていた話。更には、既に冷蔵庫にあるにも関わらず、また同じものを買ってきてしまうのはどうしてなのかと不思議に思っている。</p> <p>さまざまな本を読んで、人間の心理的な面や現在の社会状況を鑑みた考察を行って「我」が思いもよらない考えを毎回ハッキリと述べるのではないだろうか。</p>
5	<p>我：这本书很有意思了</p> <p>她：对，这个剧中人像我和你</p> <p>我：真的，不过，她不是任性。你是，，</p> <p>她：你想不想说什么？？？</p> <p>我：没关系</p> <p>たわいもない日常会話ができていることに、我は朋友のような関係だと思ったと思いました。</p>
6	关于他们读书的感想、他们的爱好、他们的工作、他们的家人和开玩笑等。

7	私が仕事の悩みや恋愛の悩みなどで落ち込んでいたときにペンギンが励ましてくれるような言葉をかけていたのだと思います。それは、ペンギンならではの斬新な考え方で、どのような小さな悩みや家族には話にくいことまでペンギンには話せたので、友達のような感覚になったのだと思います。
8	我「今日は珍しく残業でさ、疲れちゃったよ」 ペンギン「おつかれさま、ところで魚はまだ？」 ペンギン「前いた冷蔵庫は面白かったわ、食べ物も入っていたけど、大量のビールに、グラスが入っていたの」 我「はは、その冷蔵庫の持ち主はきっと酒豪だね」
9	我跟她说了只业务联系。特别是企鵝的请求。
10	我：我有讨厌的事。 她：你怎么了？ 我：我今天也加了很多班。我累了。 她：讨厌的事就给我果断拒绝。 我：是啊！但是，拒绝不了啊。 她：今天晚上你买的鱼不太好吃！ 我：骗人的吧？今天的鱼比昨天的贵。
11	「あなたの読む本は、主人公の気が弱いことが多いわね。」 「そうかい？今の世の中じゃあんまり怒りをあらわにすることはないんだよ。」 「あたしだったら凍らせちゃうわ。」 「はは、君はそうだろうけどさ・・・。」 次の日 「今日会社ですごくむかつく人がいたんだ。」 「あら、凍らせれば良いじゃない。」 「できないってば・・・。」 「仕方ないわね、じゃあここに連れてきなさいよ。あたしがやっただげる。」 「・・・ありがとう。」 「別に。そんなことでクヨクヨしてんじゃないわよ。」

4. 分析と考察

学習者の回答に対する分析は、質問1と質問4については「学習者が小説テキストの細部に対する理解をどの程度深めることができているか」、質問2と質問3については「学習者が小説テキストの〈大局的な構造〉の把握のきっかけとなり得るポイントにどの程度目を向けることができているか」という観点から実施する。

4.1. 質問1・質問4の分析と考察

質問1と質問4の分析では、まず各学習者の回答を以下の(a)～(e)の五項目に分類する。

- (a) テキスト中に明示された根拠を引用した回答（回答パターンが一つに定まるもの）
- (b) テキスト中の情報（文レベル）から解釈した回答（回答パターンが一つに定まらないもの）
- (c) テキスト中の情報（テキスト全体）から解釈した回答（回答パターンが一つに定

まらないもの)

(d) テキスト中の情報を超えて読者の経験や印象に基づいて解釈した回答

(e) その他

続いて、学習者の各回答の特徴と妥当性を小説テキスト中の根拠に基づき検討した。その結果は表5・表6に示す通りである。なお、下線部はテキスト中に明示された根拠を示す。

4.1.1. 質問1について

表5 質問1に対する各回答の分類とその根拠

回答 No.	分類	根拠
1-(1)	b	・连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子，
1-(2)	a	・但我终归是一个 <u>懒散的人</u> ，
1-(3)	b	・琢磨着从今后终于可以买点东西扔冰箱里，然后天天在家里自己做饭吃了。 ・或许对于我而言一个有厨房有冰箱的房子才能算作一个家。
1-(4)	b	・每天下班回家累得半死，
2-(1)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓，（中略）我还是像以往一样每天下馆子，
2-(2)	a	・每天 <u>下班回家</u> 累得半死，
2-(3)	b	・或许对于我而言一个有厨房有冰箱的房子才能算作一个家。（中略）即便每一次打开后看着里面空空如也时会有一股淡淡的失落。
2-(4)	b	・但我终归是一个懒散的人，每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子，
2-(5)	b	・我每天晚上睡觉前都会习惯性地翻一翻冰箱。
3-(1)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓，（中略）我还是像以往一样每天下馆子，
3-(2)	b	・但我终归是一个懒散的人，每天下班回家累得半死，
4-(1)	b	・每天下班回家累得半死，
4-(2)	a	・每天 <u>下班回家</u> 累得半死，
4-(3)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓，（中略）我还是像以往一样每天下馆子，
4-(4)	c	・テキスト全体
4-(5)	c	・テキスト全体
5-(1)	a	・但我终归是一个 <u>懒散的人</u> ，
5-(2)	d	・読者の経験や印象
5-(3)	d	・読者の経験や印象
5-(4)	b	・归是一个懒散的人，每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，
6-(1)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓，（中略）我还是像以往一样每天下馆子，
6-(2)	b	・每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子，
6-(3)	a	・每天 <u>下班回家</u> 累得半死，

6-(4)	a	・我便心血来潮地买了一个很大的冰箱,
7-(1)	b	・可是我从来都没有后悔过买这个冰箱,
7-(2)	b	・但我终归是一个懒散的人, 每天下班回家累得半死, 连买菜都懒得去, 更不用说开火做饭了, 于是我还是像以往一样每天下馆子,
7-(3)	e	
7-(4)	a	・每天下班回家累得半死,
7-(5)	a	・或许对于我而言一个有厨房有冰箱的房子才能算作一个家。它摆在屋子里让我有一种莫名安心的感觉,
8-(1)	a	・我便心血来潮地买了一个很大的冰箱,
8-(2)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓, (中略) 我还是像以往一样每天下馆子,
8-(3)	b	・每天下班回家累得半死,
8-(4)	a	・连买菜都懒得去, 更不用说开火做饭了, 于是我还是像以往一样每天下馆子,
8-(5)	c	・テキスト全体
9-(1)	b	・一年前我搬到了这所单身公寓, 因为看见有一个厨房, 我便心血来潮地买了一个很大的冰箱,
9-(2)	a	・但我终归是一个懒散的人, (中略) 而这个大冰箱也就成了一个奢侈的摆设,
10-(1)	c	・テキスト全体
10-(2)	d	・読者の経験や印象
10-(3)	c	・テキスト全体
10-(4)	a	・每天下班回家累得半死,
10-(5)	b	・每天下班回家累得半死, (中略) 即便每一次打开后看着里面空空如也时会有一股淡淡的失落。

質問1に対する学習者の回答に見られる特徴は以下の通りである。

学習者の回答（10人の学習者による計41個の回答）の中には、(a)～(e)のすべての回答方略が含まれている。図1は、学習者の回答全体に対して、(a)～(e)の各方略による回答がどの程度の割合を占めているか図示したものである⁴⁾。全41個の回答の中では、(b)の方略を用いた回答が全体の半数以上（52.0%）を占めており、(a)(b)を総合すると81.0%を占める。その一方で(c)の方略を用いた回答は10.0%と少ない。そして学習者によっても回答方略の選択にはばらつきがあり、学生No.2や学生No.6のように(a)と(b)の方略のみを用いて回答する学習者が多数を

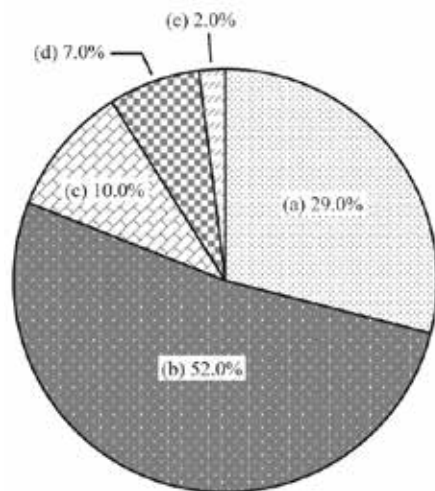


図1. 質問1の回答における各分類項目の内訳

占めるが、(a)(b)以外に(c)または(d)の方略も用いて回答する学習者（それぞれ学生 No.4・学生 No.5）や、学生 No.10 のように間テクスト的な視点からの情報を加えて回答する学習者もいることが確認できる。

全回答中で最も数の多かったものは、回答(a)に分類した「仕事が忙しい人」および「自堕落な生活を送っている人」というタイプ回答である。これら二つの回答は、原文テキスト中の「每天下班回家累得半死」および「我终归是一个懒散的人」という箇所から直接導くことのできるものである（典型的なものとして、表1の6-(3)や7-(4)が挙げられる）。回答(b)に分類した回答については、回答を一義的に制約する根拠が原文テキスト中に明示されていないものの、その大多数において複数の学習者の回答の間に共通性が見られる。例えば、学生 No.2 の「年輕人 (20 歳～ 35 歳), 單身」(2-(1)) という回答や学生 No.3 の「新卒の社会人」(3-(1))、学生 No.4 の「新卒 or 社会人 2-3 年目の比較的若い人物」(4-(3)) という回答はともに、原文テキスト中の部分テキスト「一年前我搬到了这所单身公寓(中略)我还是像以往一样每天下馆子」を根拠として解釈したものと考えられ、細部には揺れがあるものの、回答の方向性として一致している。回答(c)に分類した回答についても回答(b)と同様の傾向が見られる。学生 No.4 の「少し孤独や絶望感といったようなものを抱えているように感じる」(4-(4))や学生 No.8 の「どこか寂しさを抱えている人物のようにも思える」(8-(5))、学生 No.10 の「人には理解されないであろう何かを持ち、理解されないだろうけど、僕は好きだ、とこだわりを持っている」(10-(1)) がこれに該当する。これらは原文テキスト全体を根拠として解釈したものと考えられる。回答(b)や回答(c)に分類した諸回答に見られるこれらの共通性は、学習者たちがテキストの空所を妥当に捉えていることのひとつの証拠であり、学習者たちが「内包された読者」(イーザー, 1985)として、空所を埋める働きをしていると考えられる⁵⁾。

しかしながら、上記とは異なる性格をもつ回答も観察される。学生 No.8 の「急に自炊を始めた」(8-(1)) という回答は、おそらく「琢磨着从今往后终于可以买点东西扔冰箱里, 然后天天在家里自己做饭吃了」を読み違えたことによる明確な誤読である。「每天下班回家累得半死, 连买菜都懒得去, 更不用说开火做饭了, 于是我还是像以往一样每天下馆子」という部分テキストにも明示されているように、「我」は第一回の授業実践で扱った原文テキストの段階において、自炊することに憧れてはいるが実行には至らずにいる。また、学生 No.7 の「不整洁的人」(7-(3)) という回答も、第一回の授業実践で扱った原文テキストの段階においては、明確な根拠となる情報が存在しないため適否を判断することができないが、例えば「我会每天下班去鱼市买几条新鲜的鱼回家, 两条给她吃, 两条自己做菜吃。每天晚上睡觉前翻冰箱的习惯也变成了敲三下冰箱门, 等她开门然后一起聊一会儿天。...」という部分テキストから想起される「我」の生真面目そうな性格を考えれば、妥当であるとは明言できないように思われる。

4.1.2. 質問4について

表6 質問4に対する各回答の分類とその根拠

回答 No.	分類	根拠
1-(1)	b	・我也会偶尔跟她说说我的工作, ・有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话,
1-(2)	b	・说说身边发生的趣事, 甚至是关于未来的想法。
1-(3)	d	・読者の経験や印象
2-(1)	b	・我也会偶尔跟她说说我的工作, ・有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话,
3-(1)	a	・她是只很聪明的企鹅, (中略) 甚至家人一样。
4-(1)	d	・読者の経験や印象
4-(2)	b	・她是只很聪明的企鹅, 有很多奇奇怪怪的想法, ・她还会安慰我, 对我说些鼓励的话, 所以我对她有着越来越强的依赖感,
5-(1)	d	・読者の経験や印象
6-(1)	a	・而我们每天的话题也大多和这些书有关。
6-(2)	b	・说说身边发生的趣事,
6-(3)	a	・我也会偶尔跟她说说我的工作,
6-(4)	d	・読者の経験や印象
7-(1)	b	・我也会偶尔跟她说说我的工作, 说说身边发生的趣事, 甚至是关于未来的想法。有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话,
7-(2)	b	・有很多奇奇怪怪的想法,
8-(1)	b	・我也会偶尔跟她说说我的工作, ・有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话,
8-(2)	d	・読者の経験や印象
9-(1)	e	・その他
10-(1)	b	・我也会偶尔跟她说说我的工作, ・有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话,
10-(2)	d	・読者の経験や印象
11-(1)	d	・読者の経験や印象

質問4に対する学生の回答に見られる特徴は以下の通りである。

学習者の回答（11人の学習者による計20個の回答）の中には、(c)を除く(a)~(e)の回答方略が含まれている。図2は、学習者の回答全体に対して、各方略を用いた回答がどの程度の割合を占めているか図示したものである。全20個の回答の中では、(b)の方略を用いた回答が40.2%、(d)の方略を用いた回答が37.1%を占めている。このうち回答(a)および(b)は、原文テキスト中の「我也会偶尔跟她说说我的工作, 说说身边发生的趣事, 甚至是关于未来的想法。有时候心情不好, 她还会安慰我, 对我说些鼓励的话, 所以我对她有着越来越强的依赖感」という部分テキストの情報を根拠として想像されたものであり、回答(c)は、テク

ストの枠組みを超えて読者個人の経験や印象に基づいて想像されたものであると分類できる。学習者の中には、前者の回答のみを示す学習者（学生 No.2, 7）、後者の回答のみを示す学習者（学生 No.11）、前者と後者双方の回答を示す学習者（学生 No.1, 4, 5, 6, 8, 10）がいることが確認できる。

部分テキストの情報を根拠として解釈された回答を俯瞰すると、学生 No.2, 10 が提示する「我」の仕事に関連して想像される会話は、総じて<「我」がネガティブな内容を話し、「她」がポジティブに応答する>という構図であり、異なる学習者の回答の間で共通した傾向が見られる。これらの回答は、原文テク

ストの「有時候心情不好，她还会安慰我，对我说些鼓励的话」の部分からさらに発展的に想像を膨らませたものであると考えられる。この両者に見られる共通性は、質問1と同様に学習者たちがテキストの空所を妥当に捉えていることの証拠であると判断できよう。

読者個人の経験や印象に基づいて想像された回答には様々なタイプのものが見られるが、この物語の<大局的な構造>やそこから想起される「我」の性格・性質という視点から評価したときに、妥当と考えられる回答と妥当とは言い難い回答の双方が見られる。前者は、回答 5-(1)、10-(2)、11-(1)である。例えば 5-(1)は、「我」と「她」が一緒に本を読んでいる状況から想像したユーモラスな会話であるが、この会話の中に表れているような両者の関係性（「我」の不用意な一言に、「她」が食ってかかるような構図）は、原文テキストの「喂，拜托你搞清楚，不是谁养谁的关系好吧？你以后别把我当你的宠物明白没？你也别指望我会屁颠屁颠地跟在你的屁股后面。」という部分からも読み取れるものである。また 11-(1)の会話の構図は、原文テキストの「你到我的冰箱里干什么？」から「既然你买了个这么大的冰箱，又不准备放吃的，那不妨就借我住一下子咯。」までの一連の会話からも想像できよう。後者は、回答 1-(3)である。「每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子」という状態の「懒散的人」である「我」が、自分が着る服などにこだわりをもつとは考え難く、妥当であるとは言い難い。回答 4-(1)、6-(4)、8-(2)に関しては、現在筆者はこれらの回答が妥当と言えるのか判断することができない。なぜならこの物語の結末は読者に開かれていると考えられるものの、小説テキストの主題は、あくまでも「我」と「她」の二者間での関係性に限定されており、このような状況において、「她」が前にいた冷蔵庫の持ち主の話を「我」にするか否か判断がつかないからである。このことに関しては、今後、本テキストに対する物語論的な分析を別途実施し、明らかにしていきたいと考えている。

また、この他に、実質的に原文テキストを要約しただけであり解釈を行っていない回答

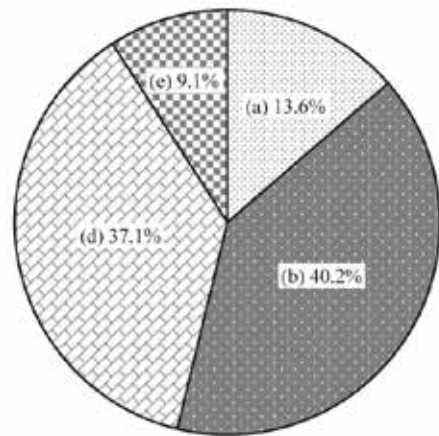


図2. 質問4の回答における各分類項目の内訳

(3-(1)) や、明らかな誤読による回答 (9-(1)) も観察される。

4.2. 質問2・質問3の分析と考察

質問2・質問3の分析では、まず各学習者の回答を以下の(イ)~(ホ)の五項目に分類する。

- (イ) 焦点人物の葛藤・変容を示唆する情報を含む回答 (<大局的な構造>を反映する回答)
- (ロ) 焦点人物の葛藤を示唆する情報を含む回答 (<大局的な構造>を反映する回答)
- (ハ) 焦点人物の変容を示唆する情報を含む回答 (<大局的な構造>を反映する回答)
- (ニ) 焦点人物の葛藤・変容を示唆する情報を含まない回答 (<大局的な構造>を反映しない回答)
- (ホ) その他の観点から物語の<大局的な構造>を反映する回答

続いて学習者の各回答の妥当性を回答テキスト中の根拠に基づき検討した。その結果は表7・表8に示す通りである。

4.2.1. 質問2について

表8 質問2に対する各回答の分類とその根拠

回答 No.	分類	根拠
1	ハ	変容：結果我下班后买条鱼回来。
2	イ	葛藤：等一下，為什麼我需要給她買到魚？（考慮一下） 変容：沒辦法。因為她超可愛所以我想幫助她。
3	ニ	
4	イ	葛藤：急に現実世界に戻されたような感覚にハッとした。「いや、待てよ。なんでペンギンなんか冷蔵庫にいるんだよ！！！！？」 変容：そんなこんなで私の目前に立ちはだかるのは、まるでゲームの世界でラスボスが住まう古城のような風貌をした巨大な建造物だ。
5	ニ	
6	ハ	変容：我要给她买很多鱼。
7	イ	葛藤：嫌いけど憎みきれいなあ、勝手に使って凶々しいなあ 変容：一匹くらいなら買ってあげようかなあ
8	イ	葛藤：それにしても、と私は思った。 変容：とにかく、と私は決めた。仕事の帰りに魚を買って帰ろう。自分の分も買って、久しぶりに料理をするのもいいかもしれない。
9	ニ	

質問2に対する学生の回答に見られる特徴は以下の通りである。

学習者の回答 (9人の学習者による計9個の回答) は、(イ)(ハ)(ニ)の3種類に分類できる。

2.2節でも議論したように、本テキストには、物語全体を通した主題として<「我」の

変容>が設定されていると考えられる。そして第二回の授業実践で扱ったパートから第三回の授業実践で扱ったパートにかけて、<「我」の変容>の構造と変容の契機となる「我」の内的な「葛藤」(e.g. 小嶋, 2011)を示唆する機能として、<「她」から魚を買ってくるように頼まれ、一通りの葛藤を経て、結局魚を買ってくる>という構図が示される。

学習者の回答のうち(イ)に分類されるものは、学習者が意識的・無意識的であるかに関わらず、この構図が反映されていると捉えられるものである。図3は、学習者の回答全体に対して、各方略を用いた回答がどの程度の割合を占めているか図示したものである。

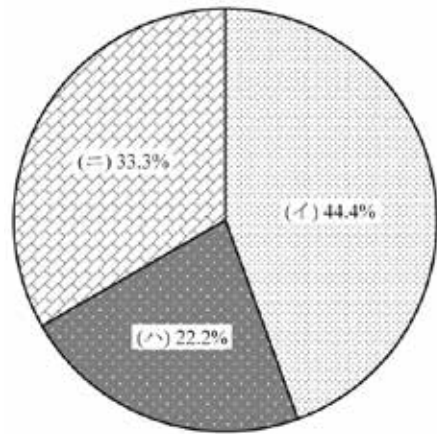


図3. 質問2の回答における各分類項目の内訳

全9個の回答の中で(イ)に分類される回答が44.4%、(ハ)に分類される回答が22.2%を占めており、両者を総合すれば66.6%を占める。

例えば回答2では、「我」はくなぜ?>という反応(「为什么我需要给她买到鱼?」)をし、しばらく逡巡する(「考虑一下」)という葛藤の過程を経たのち、<魚を買ってあげよう>と決断する(「没办法。因为她超可爱所以我想帮助她。」)様子が描かれている。回答8では、「我」はまず「她」が何者であるのか、そしてどこからやってきたのだろうかということに思いを巡らせ、そして「仕事の帰りに魚を買って帰ろう」と決断する。この回答に特徴的なのは、焦点人物である「我」が小説テキストの外部にいる読者に非常に近い観点からこの物語世界内の現実を眺めているということである(例えば「動物園かどこからか逃げ出してきたのだろうか」「精巧なロボットなのだろうか」などの思考)。この点は他の学習者には見られない学生No.8のオリジナリティーである。そして、「久しぶりに料理をするのもいいかもしれない」という部分については、この小説テキストのその後の展開(「她」がきっかけとなって「我」が変容する筋書き)を先行して提起するものであり、本小説テキストにおける空所を妥当に捉えている証拠であると考えられることができるだろう。

また、興味深い回答として回答4がある。「我」は本回答テキストの後半部分において、現在自身が直面している二つの壁(「巨大な建造物」と自らの関係性について「そんなこんなで私の目前に立ちはだかるのは、まるでゲームの世界でラスボスが住まう古城のような風貌をした巨大な建造物だ。人がどんどん吸い込まれていくその建物は巨大な掃除機のような異様を放っているのだが、誰もそんなことは毛頭考えない。かくいう自分も今からその掃除機に自ら吸い込まれていく人間なのである。」)と内省する。本回答テキストにおける「この巨大な建造物」とは「我」の勤める会社や、そこでの仕事を中心に回る「我」自身の生活を指すものである。「我」自身の仕事というものに対する感覚は、「我」自身の日常の中で自動化されているものであるが(原文テキストの「每天下班回家累得半死」)、

「她」というもうひとつの「異様を放っている」ものとの邂逅という非日常を経験したことによって、「我」自身の中で異化され前景化されたことが本回答テキストから読み解くことができる⁶⁾。つまり、①仕事を中心とする「我」の生活と②「她」という二つの巨大な壁を乗り越えたときに「我」の変容が完了するということを示唆するものであると言えよう。そして本回答テキストの特筆すべき点として、「家の中」で起きたことはいったい何だったのかという「我」の思いについて、「我」を「家の外」に出すことによって効果的に表現していることが挙げられる。「家の中」は非日常であり「家の外」は日常であるという物語構造のひとつの骨格が見出されているのである。この「家の中」の非日常と「家の外」の日常の対比という点については、「我」と「おばさん」との対比においても効果的に表現されている(本回答テキスト「ゴミ出しに出かけた二つ隣のおばさんがビックと肩をすくめてこちらを見た」)。陳湛による原文テキストは「家の中」での描写が中心となっているが、学生 No.4 による本回答テキストは「家の外」を描いており、この二者は相互に補完し合い、物語世界を豊かに拡張していると考えられるだろう。(本回答テキスト「玄関のドアを閉めて外に出ると、朝の気持ちいい風に当たったせいか、急に現実世界に戻されたような感覚にハッとした。») このことは、陳湛の原文テキストと学生 No.4 の読みとの間で優れた「読みの交流」が生じた証拠であると言えよう。

一方で(=)に分類されるものは、前述の構図が反映されていないと捉えられるものである。これに該当する回答 No.3, 5, 9 は、第二回の授業実践で扱った範囲においては矛盾なく想定され得る物語展開の一つの可能性ではあるものの、両回答における「我」の反応には、「她」を理解する、つまり「她」を「我」自身の中に内面化しようとする姿勢が見られない。

4.2.2. 質問3について

表9 質問3に対する各回答の分類とその根拠

回答 No.	分類	根拠
1	口	葛藤：冰箱就是这样。我没听过一直通电的冰箱。
2	ホ	到現在“她”每次讓家庭成員修復冰箱嗎？真的！好厲害。大家辛苦了，“我”也需要修復冰箱嗎？
3	ニ	
4	口	葛藤：冷蔵庫は扉が開くと電気がついて、閉まると電気が消える。そういうものだろう??
5	ニ	
6	イ	葛藤：冷蔵庫の明かりが開けたらついて閉めたら暗くなるのは当たり前だからどうすることもできないだろうと思いつつ、 変容：わがままなペンギンがとても可愛いから手伝ってやろうと思う。
7	ハ	変容：直してあげたいけど自分にできるかな？
8	口	葛藤：それは冷蔵庫の仕様なのだから直せないなあ。
9	ニ	

質問3に対する学生の回答に見られる特徴は以下の通りである。

学習者の回答（9人の学習者による計9個の回答）は、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)の5種類に分類できる。第三回の授業実践で扱ったパートから第四回の授業実践で扱ったパートにかけて、<「我」の変容>の構造と変容の契機となる「我」の内的な葛藤を示唆する機能として、<「她」から冷蔵庫の電灯を直すように頼まれ、一通りの葛藤を経て、結局冷蔵庫を改造する>という構図が示される。

学習者の回答のうち(イ)(ロ)(ハ)に分類されるものは、この構図が反映されていると捉えられるものである。図4は、学習者の回答全体に対して、各方略を用いた回答がどの程度の割合を占めているか図示したものである。全

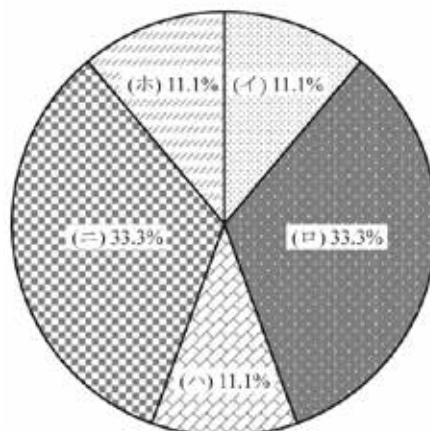


図4. 質問3の回答における各分類項目の内訳

9個の回答の中で(イ)に分類される回答が11.1%、(ロ)に分類される回答が33.3%、(ハ)に分類される回答が11.1%を占めており、これらを総合すれば55.5%を占める。例えば回答6では、「我」は「冷蔵庫の明かりが開けたらついて閉めたら暗くなるのは当たり前だからどうすることもできないだろう」という葛藤（ここでは自動化された現実を問い直す反応として表出されている）を経て、「わがままなペンギンがとても可愛いから手伝ってやろう」という認識に至る様子が描かれている。ちなみに、この「可愛いから」という動機は、原文テキストの「她長得很漂亮，娇小的身子，光亮的毛发，樱红色的小嘴。」を根拠とするものであると捉えられる。

一方で(ニ)に分類されるものは、前述の構図が反映されていないと捉えられるものである。例えば回答3における「我」の反応には「她」を理解しようとする姿勢が見られず、他者としての「她」を内面化することによる<「我」の変容>が起き得ない。また回答9は<冷蔵庫の改造>とは異なる手段を講じようとする「我」を描いたものである。これは第三回の授業実践で扱った原文テキストの段階においては、物語世界のひとつの展開の仕方として有り得るかもしれないが、物語世界の示す<大局的な構造>（<「我」の変容>、そしてそれが冷蔵庫の暗明の転換と対応しているということ）を捉えてはいない。

(ホ)に分類されるものは、<「我」の変容>とは異なる観点から小説テキストの<大局的な構造>が反映されていると捉えられるものである。回答2において「我」は<これまでに「她」が居候していた冷蔵庫の持ち主はどうしていたのか？>という疑問を抱く（本回答テキスト「到現在“她”每次讓家庭成員修復冰箱嗎？」）。これは「她」（もしくは「她」）として表徴される非日常的存在）とは、この物語世界における「我」のもとにのみ訪れるものではなく、誰のもとにも訪れる可能性のある存在であるということに読者が気づく。つまりこの小説テキストが「我」という特定の焦点人物のみに限定された物語ではなく、

〈開かれた物語〉であるという〈大局的な構造〉に読者が気づくきっかけなり得るものであろう。

5. まとめと今後の課題

本研究では、中国語学習者の文学テキストに対する読みの深化を促進できるような授業の設計に資するための基礎データを取得することを目的として、文学テキストを題材とした読解授業の実施時に、授業課題として「情報駆動の読み」のみならず「物語内容駆動の読み」や「要点駆動の読み」が可能な設問を導入し、それらに対する学習者の回答の傾向を分析した。その結果、学習者の小説テキストに対する読解傾向として、以下の4点が明らかとなった。

(1) 全体的な読解傾向として、学習者は大きく分けて3つのレベルの情報 (Ⅰ)文中の特定の箇所・(Ⅱ)文レベル・(Ⅲ)テキストレベル) を参照しながらテキストを読み解いており、その中でも(Ⅲ)文レベルの情報を参照したものが最も多いことがわかった。(Ⅰ)文中の特定の箇所を直接引用した回答については、学習者の回答内容に一貫性が見られた。また、(Ⅱ)文レベル・(Ⅲ)テキストレベルの情報を〈解釈〉した回答に関しても、内容に共通性が見られた。これは学習者がテキストの空所を妥当に捉えていることの証拠であると判断できる。

(2) テキストの指標に関連する学習者の回答には、文中の情報を直接引用したものと、文レベル・テキストレベルの情報を解釈したものの双方が存在する。また、その他に、テキストの枠組みを超えて、読者個人の経験や印象に基づいてテキスト中の情報を解釈したものが存在する。一方、テキストの枢軸機能体に関連する学習者の回答には、テキスト内で展開される物語の〈大局的な構造〉の構図が(部分的にでも)反映されていると捉えられるものとそうでないものの双方が存在する。

(3) 学習者の回答の中には、少数ではあるものの誤読も散見される。誤読は、①テキスト中に明示化された情報を正確に読み取れていないもの、②文脈を正確に捉えられていないもの、③物語の大局的な構造を正確に捉えられていないもの、の3種類が挙げられる。

(4) 学習者の回答の中には、原文テキストの〈大局的な構造〉を正確に把握しつつ原文テキストの空所を明示化し、物語世界を豊かに拡張していると感じられるような創造的なものも存在する。

本研究結果(1)~(4)から推察される今後の授業実践における課題は以下の通りである。

(A) 学習者が文(部分テキスト)のみならず、テキスト全体の構造にも目を向けられるような教授法の工夫が必要であると考えられる。具体的には、授業の中盤において、物語論の手法を応用してテキストの構造を把握するような授業内活動を導入するなどの方法が想定される。これらの手法は国語教育学の分野で多くの理論研究や実践例が報告されており(e.g. 丹藤, 2018; 田近, 2013)、同分野の研究成果を中国語教育分野に導入するための方法論の検討も必要となるだろう。

(B) 教師のより効果的なファシリテーションのためにも、題材とする中国語文学テキストの物語構造の研究(物語の枢軸機能体や指標、叙法や時間の分析: e.g. 中里見, 1996)を

事前に実施し、授業の補助資料を作成することが求められる。

(C)本実践では、物語内容を理解することに重点を置いた反面、本実践が学習者の中国語運用能力の向上に直接的に作用したかは疑問が残る。従って、物語内容の理解と中国語運用能力の向上の双方を促進できるような設問も同時に作成する必要があると考えられる。この一つの可能性としては、本実践で提示したタイプの設問に加え、文体論に立脚する設問を導入することが挙げられる。例えば英語教育の分野においては文体論に基づく授業設計の先行事例が存在し (e.g. 今村・小野, 2014)、教科書も作成されているため (e.g. 倉林・今村, 2019)、これらを中国語教育に応用する方法を検討していく必要がある。また、本実践で提示したタイプの設問に関しても、振り返ってみると、今回のものは各設問の発問意図がやや不明瞭であったと感じられるため、「情報駆動の読み」「物語内容駆動の読み」「要点駆動の読み」の何に焦点を当てたものなのかを明確化し、質問をより体系的に提示する必要があると考えられる。

(D)本実践ではオンデマンド形式で実施したため、学習者相互の意見交換の機会を設けることができなかったが、このような機会を設けることによって各学習者の意見を全体で共有し、昇華することができるほか、題材としたテキストの空所に「何が書かれているのか」をより深く吟味・検討できると考えられる。これらの学習活動は田中 (1996) 等が提唱する〈他者理解としての作品読解〉としての意味合いをもつと考えられ、異文化理解教育としての中国語教育のより積極的な推進に繋がり得るものであると考えられる⁷⁾。

本実践においては、授業時間数の関係で小説テキストを最後まで読み解くことができなかったほか、事前に教師側で行うべきテキスト分析が不足していたり、クラス全員での意見交換の機会を設定できなかったりといったように課題も多かった。今後は上記の課題(A)～(D)を授業設計にフィードバックし、本実践において明確化された課題を改善するとともに、異なる文学テキストも用いながら、さらに実践を重ねていきたい。

注

- 1) 山元 (2014:46) は「読みの交流」に関して、「ローゼンブラットの「交流理論」は作品と読者とが、ある状況のもとで「交流」して「読者の作品 (a literary work)」を作り出す模様を説明している。ローゼンブラットが言うような形で「読者の作品」が作り出されるために必要な要素が「喜びを味わう」要素である。」と述べる。
- 2) 廣野 (2005:34-35) は「焦点化」という用語に関して、「ジェラルド・ジュネットやミック・パール、リモン＝キーナンといった物語論者たちは、だれが語っているかという問題と、だれが見ているかという問題を区別し、「見る」という行為を「焦点化」という概念で規定した。そして、見ている主体を「焦点人物」と名づけた。また、(中略) 焦点人物が物語世界の外側にいる場合を「外的焦点化」、焦点人物が物語世界の内側にいる場合を「内的焦点化」という。」と説明する。
- 3) 齋藤 (2018:161) は「変容」および「変容的な物語」に関して、「物語の持つ Transformative Stories (変容的な物語) というもの (中略) を、物語論の立場から

考えると、人間というものは、自分自身の物語を書き換えながら、自分自身が変化していくものだ。(中略)物語を読んだり、聞いたり、語ったりという体験は「登場人物として物語の中で物語を体験するような」体験だから、変容的な価値の高い物語が真に機能するとき、その物語の内容(プロットとかキャラクターとか)には、その変容的な性格が表現されているはずなのだ。」と述べる。

- 4) 学習者の回答全体に対する各方略による回答の割合は、各学習者が複数の方略を並行して使用している状況を考慮し、以下に示すような方法で計算したものである。例えば、質問1における(a)の割合(便宜的にP(a)と呼称する)は、

$$P(a) = \sum_{n=1}^Y [X_n \times \{(1/Y) \times (1/Z_n)\}]$$

(X_n: 学生 No.n の回答中における項目(a)を用いた要素の個数、Y: 全学習者数、Z_n: 学生 No.n の回答中における要素の総数)により、以下の通り導出される。

$$P(a) = 0.025+0.020+0+0.020+0.025+0.050+0.040+0.040+0.050+0.020 = 0.29 = 29.0\%$$

- 5) イーザー(2005:59)は「内包された読者」という概念について、「内包された読者の概念は、テキストには読者の反応を導く構造のネットワークがあり、それによって読者のテキスト理解が促進されるという力学的な過程を総称している。どのような文学テキストであっても、読者に対して、つねに特定の役割を提供している。この役割の概念構成が内包された読者である。」と説明する。
- 6) 廣野(2005:92)は「異化」「前景化」という用語に関して、「ふだん見慣れた物事から、その日常性を剥ぎ取り、新たな光を当てることを「異化」と呼ぶ。そして「異化」を引き起こすために、ある要素や属性を強調し、読者の注意を引きつけるように際立たせる方法を、「前景化」という。」と説明する。
- 7) 田中(1996:273-274)は「他者理解としての作品読解」に関連して、「<本文>とは読者主体にとって到達不可能、了解不能の<他者>として働くのであれば、わたしの目指す読書行為とは「解釈共同体」のなかに拘束され、文化共同体に生きている読者主体をこの了解不能の<他者>との葛藤によって読書主体の方を瓦解させ、<私のなかの文化>を倒壊させていく行為なのだと思いたいのである。それを対象化し、解明していく作業が読書(文学研究)の向かうべき世界であろう。」と主張する。

参考文献

- J = M・アダン著;末松壽・佐藤正年訳(2004)『物語論—プロップからエーコまで』白水社
- 相原茂・蘇紅(2021)『ハッピーエンドの中国ショートショート』朝日出版社
- R・バルト著;花輪光訳(1979)『物語の構造分析』みすず書房
- 陈湛(2014)《世界上所有童话都是写给大人看的》天津人民出版社
- 橋本陽介(2014)『ナラトロジー入門—プロップからジュネットまでの物語論』水声社

- 廣野由美子（2005）『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』中央公論新社
- W・イーザー著；轡田収訳（2005）『行為としての読書』岩波書店
- 今村有希・小野章（2014）「文学テクストを用いた英文読解：文体論に基づいた発問とペ
アワークを活用して」『中国地区英語教育学会研究紀要』44, 21-30.
- 石原千秋（2009）『読者はどこにいるのか—書物の中の私たち』河出書房新社
- 小嶋かおり（2011）「絵本にみられる対人葛藤と心の理論による物語理解」『新潟青陵大学
短期大学部研究報告』41（41）, 163-173.
- 倉林秀男・今村楯夫（2019）『ヘミングウェイで学ぶ英文法2』アスク出版
- 中里見敬（1996）『中国小説の物語論的研究』汲古書院
- Rosenblatt, Louise M. (1938) *Literature as Exploration*, MLA
- 齋藤清二（2018）「「あ！萌え」の構造（番外編その5）—変容的な物語（Transformative
Stories）」『対人援助学マガジン』35, 161-167.
- 関根謙ほか（2020）『文学の窓—中国語精読テキスト』東方書店
- 単艾婷（2021）「レベル横断型中国語読解テキストの設計と試行—現代小説を題材として」
『西南学院大学言語教育センター紀要』11：33-48 頁
- 渋谷孝（2003）『文学教材の新しい教え方』明治図書
- 田近洵一（2013）『創造の＜読み＞新論—文学の＜読み＞の再生を求めて』東洋館出版社
- 田中実（1996）『小説の力—新しい作品論のために』大修館書店
- 丹藤博文（2018）『ナラティヴ・リテラシー—読書行為としての語り』溪水社
- Vipond, Douglas & Hunt, Russell A. (1984) "Point-driven Understanding: Pragmatic and
Cognitive Dimensions of Literary Reading", *Poetics*, 13, 261-277.
- 山元隆春（2014）『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』溪水社